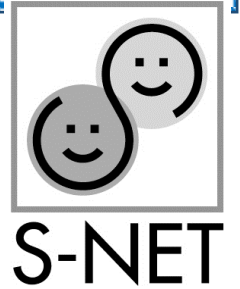


KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞)

広報41号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話 090-4937-4904 定価 30円
ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com



オンブズマン活動について (その2)

社会福祉法人翔の会 ゆるり・水平線マネジメント担当施設長 高橋健一

前号で江崎さんが書いておられるように、翔の会がオンブズマンを受入れて18年が経ちました。

この回は、オンブズマンを導入している施設側から書くことになりました。

＜なぜネットワーク型だったのか＞

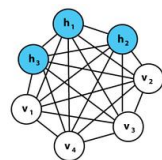
福祉オンブズマンは、20年ほど前に「施設単独型」で始まりました。

しかし、施設単独で施設長が自分の施設に入るオンブズマンを任命するため、第三者性が担保されない問題がありました。

本来は市民が立ち上げるのが理想ですが、

「市民型」を待っていてもいつになったら市民が福祉オンブズマンを立ち上げてくれるのか、というのが現実でした。

そこで考え出したのが、複数の施設が相互にオンブズマンを推薦し、自分が推薦したオンブズマンは自分の施設には訪問しないことを原則とし、オンブズマン導入の第三者性を担保する方法でした。これが「ネッ



トワーク型」であることから、「湘南ふくしネットワークオンブズマン」（以下Sネット）という名称になりました。

1997年、Sネットは、加盟施設8、オンブズマン6名で発足します。

8つの施設の施設長は、オンブズマンとともに定期的に会議を開催し、「福祉サービスにおける権利擁護とは何か？」を具体的な相談内容をもとに検討していきました。その話し合いの中から施設長達もオンブズマン達も双方が多く気づきを得ることになります。

現場の改善努力だけでは解決し得ない制度的な課題に対しては、Sネットとして社会に課題を投げかけるという「ソーシャルアクション」もネットワーク型の大切な役割だということに気づきます。

従来のオンブズマンという言葉のイメージは「告発・糾弾型」でした。しかしこれは現場を萎縮させ、施設を守りの姿勢にしてしまう、ディスエンパワーメントの関係になることに



気づきます。

そこで意識したのは、オンブズマンも施設側とともに課題に向き合う「協働型」のオンブズマンの姿勢でした。もちろんこれは、施設側とオンブズマンの「質の高い緊張関係」に裏打ちされることが必要です。



その頃は、サービス利用者がエンパワーメントされ、施設側もオンブズマンもエン

パワーメントされていく過程を実感できていたと思います。

ここで言うエンパワーメントとは、無理だと思いつめていた事が実は自分達の方で解決できるのだと気づき、行動していけることだと思っています。苦勞して力をつけるのではなく、本来自分たちが当たり前持っている力を思い出せばよいため、それがエンパワーメントだと思っています。

<これからのSネットのありかたは>

2000年3月のSネット総会の時点では、加盟施設19、オンブズマン15名になり、2001年5月にはNPO法人として認証登記され、Sネットは名実ともに「市民型」になりました。

しかし、その後加盟施設は減少していきます。「市民型」になったことで「ネットワーク型」の存在理由が薄れ、加盟施設のネットワークが求心力を失う要因となったのかもしれませんが。(この考察は後に譲りたいと思います)

結果として、現時点では社会福祉法人翔の会と一部の個人会員のみの導入となり、福祉オンブズマンのあり方そのものも考え直す事が必要となってきました。

今後、具体的にどのような仕組みを創り提案していくか、現在施設側とSネットプロジェクト会議を開催し検討をしています。このプロジェクト会議に対して翔の会は、Sネット立ち上げ世代の次の世代の若手施設長達を中心に進めていくことにしています。



成年後見制度もさまざまな課題を抱えながら定着してきたこの時期に、いまふたたび利用者もオンブズマンも施設も、ともに相互にエンパワーメントできる関係を再構築し、地域の権利擁護を進めて行く道筋を創っていかねばならないと願っています。



権利擁護についての図書紹介

(出版社/本の題名/著者名の順)

- ◇ 中央法規「福祉キーワードシリーズ 権利擁護」高山直樹・大石剛一郎・川村隆彦 編著
- ◇ 中央法規「福祉“オンブズマン”新しい時代の権利擁護」福祉オンブズマン研究会 編
- ◇ エンパワメント研究所「権利としての自己決定 そのしくみと支援」
「施設改革と自己決定」編集委員会 編
- ◇ 現代書館「権利擁護が支援を変える セルフアドボカシーから虐待防止まで」竹端寛 著
- ◇ 青灯社「枠組み外しの旅 — 『個性化』が変える福祉社会」竹端寛 著



私たち特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマンが大切に、常に考える原点としている行動規範、倫理綱領となっている、「オンブズマン活動宣言」をご紹介します。

オンブズマン活動宣言

前文

私たちオンブズマンは、施設や地域において、福祉のサービスを利用または必要とする人たち（以下、「利用者の人たち」という）の権利を守り、その人が決めた、その人らしい生活を実現するために活動します。

私たちは、利用者の人たちの意見に耳を傾け、それらの人たちが抱えている問題に対し、一生懸命にとりくみ、アイディアを出し合い、持てるだけの力を集めて、利用者の権利を守り、その人らしい生活の実現のために役立ちたいと思います。そのためにはぜひ、まわりにいる人たちにも協力していただくことが必要になります。

ただし、私たちは、あくまでも利用者の人たちの権利を守ることを第一に考えています。このような立場をとりますから、活動の中で、ときには利用者の人たちのまわりにいる人、例えば、施設を経営する人や施設で働く人、あるいは役所の人などと対立することがあるかもしれません。

しかし、そのようなときでも私たちは、何よりも利用者の人たちの権利を守り、かつ実現することを第一に考えたいと思っています。それは決してまわりの人たちとの対立を好んだり、批判することを目的としているものではありません。

私たちは、いろいろな立場の人と正面から向き合って、真剣に話し合い、協力し合っていきたいと考えます。あるときには意見を異にしながらも、利用者の人たちの声に耳を傾け、一人ひとりの声を実現するために全力を注ぎます。

そして一人ひとりの声の実現をその人だけのものとするのではなく、この活動を通して、まず私たちの住む湘南、そして神奈川県の人々の幸福を実現したいと思っています。さらにこのような活動の輪を広げ、福祉社会の構築に役立ちたいと願っています。

宣 言

1. 私たちオンブズマンは「権利」とは「その人らしく生きるために欠かせないもの」ととらえ、これを守り、かつ実現するために活動します。
2. 私たちオンブズマンは「権利」を奪うこと、特に体罰、虐待、拘束などを絶対にゆるしません。
3. 私たちオンブズマンは、その人自身が決めたこと、考えたこと、訴えたいことを尊重し、秘密を守り、最善の利益のために活動します。
4. 私たちオンブズマンは、障害者・高齢者・児童一人ひとりが市民として地域社会でともに暮らせるように、社会のあり方を変えることに努めます。
5. 私たちオンブズマンは、利用者の人たち、まわりにいる人たち、地域のあらゆる人たちと協力し、ノーマライゼーション社会の実現をめざします。

1997年7月1日



はみだしコラム

近所のスーパーに買い物に行った時のことです。レジの付近で、3人の警察官が、知的障害があると思われる男性を取り囲んで何か話しかけているのを見かけました。警察官の後ろには店長と思われる人が困った様子で立っています。

警察官は男性に外に出るように促していましたが、男性はびっくりしてしまったのか言われていることが理解できないのか、動く事ができない様子でした。

警察官も店長も男性もお互いにとり合えずにすくんで動けなくなってしまっているようでした。お店は夕方の混み合う時間だし、人々が忙しく出入りしている中です。



とっさに以前、知的障害のある息子さんが警察に捕まったときの事を話してくれたSネットの仲間のお話を思い出して、お店の外に出て連絡しました。「答えられるかどうかかわからないけれど、まずは『おうちの電話番号を教えてください』あるいは『療育手帳を見せてください』と声をかけてみてはどうでしょうか」というアドバイスを受け、引き返して店長に、自分は障害者に関係したNPO法人に属している事を話した上で、それをそのまま伝えました。

店長が警察官に伝えたところ、電話番号を男性が言えたようで、間もなく母親と思われる女性が現れ、警察官と話していました。そして男性は警察官とともに店の外に出て行くことができたのでした。

店長に母親が来たことを確認したあと、今後は警察を呼ぶ前に、まず電話番号等を聞くなどの方法を取ってみたいのではないかと話しました。ご本人の個人情報に関する事なので何をした為に警察を呼んだのかについてはあえて聞きませんでした。

全くの部外者なので、どこまで関与してよいのか分かりませんでした。でも見過ごせないという心境でした。

そして、私自身を含め、店舗の関係者、警察が、このような、知的障害のある人への対応の仕方を知らないということを感じました。

障害のある人もない人も共に暮らすインクルーシブ(共生)社会を目指すSネットの一員として、大事な体験だったと思います。

賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費
 - ・個人 年額 ー□ 1,000円 (ー□以上)
 - ・法人 年額 ー□ 5,000円 (ー□以上)

- ◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください
 - 郵便振替口座番号：00210-9-75496
 - 口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

